

## これまでの総合計画審議会における主な意見と対応状況

令和2年7月27日  
広島県経営企画チーム

## 1 総論

主な意見	計画素案への対応状況
県民が幸せを実感することができ、将来への明るい展望が描ける計画とすべき。	<p>【目指す姿】(15 ページ)</p> <p>○ 新ビジョンの『目指す姿』を次のとおり設定した。 県民一人ひとりが「安心」の土台と「誇り」により、夢や希望に「挑戦」しています ～仕事も暮らしも。里もまちも。 それぞれの欲張りなライフスタイルの実現～</p>
中山間地域は、人口減少と高齢化が加速しているが、特性を活かした地域づくりを進めていく必要がある。	<p>【特性を活かした地域づくり】(19～22, 68～69 ページ)</p> <p>○ 目指す姿の実現に向けた基本的な考え方に「特性を活かした地域づくり」を位置付けた。</p> <p>○ 特に、中山間地域については、都市にはない多面的な機能や魅力を有しており、これらを活かした地域づくりを総合的に推進していく。</p>
計画の実現と進捗をチェックするため、適切なKPIの設定が必要である。	<p>【KPI】(3 ページ (17 施策領域))</p> <p>○ 別に策定する5年間のアクション・プランにおいて、取組の進捗を測るKPIを設定していく。 (令和2年10月素案, 12月策定予定)</p>

## 2 施策を貫く3つの視点と施策マネジメント

主な意見	計画素案への対応状況
教育や医療などの分野でデジタル技術を活用すれば、都市と中山間地域の格差解消にもつながる。	<p>【DXの推進】(26 ページ)</p> <p>○ 施策を貫く3つの視点の一つに「DXの推進」を位置付けた。</p> <p>○ 教育、医療・介護を始め、防災・減災や産業イノベーションなど、デジタル技術を活用した取組を位置付けた。</p>
広島の特徴や強みを活かし、それを尖らせていくブランドの発想が必要である。	<p>【ひろしまブランドの強化】(27 ページ)</p> <p>○ 施策を貫く3つの視点の一つに「ひろしまブランドの強化」を位置付けた。</p> <p>○ ブランド価値の向上を意識した取組を進めることで、県民に広島の強みを再認識していただき、県民の誇りにつなげるとともに、国内外からの共感獲得にもつなげていく。</p>
SDGsの考え方を総合計画に入れるべき。	<p>○ 本県は「SDGs未来都市」に選定されており、SDGsが掲げる目標・ターゲットと照らし合わせながら、本県の取組を進めていく。</p>
県の発展に最も重要となるのは「人」であり、様々な分野で人材育成を進めるべき。	<p>【人材育成】(28 ページ)</p> <p>○ 施策を貫く3つの視点の一つに「人材育成」を位置付けた。</p>

主な意見	計画素案への対応状況
県の役割として、市町との連携は不可欠である。	<p>【市町等との連携】(30 ページ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 『2(2) 県民及び市町との連携・協働』に、住民に身近な行政を担う市町と連携・協働して取り組むことを記載した。</li> <li>○ 6月3日に、市町に対して説明を行い、目指す姿やそれを実現するための取組などを共有した。</li> </ul>
次代を担う若者の意見を聞くべきである。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 6月9日に、広島青年会議所(JC)との意見交換会を開催し、今後の広島県づくりに必要な視点や取組について議論を行った。</li> </ul>
計画の実現に必要な財源についても整理が必要である。	<p>【行政経営の基盤づくり】(31 ページ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新たな県づくりを進めていく上で必要となる財政面・行政面の方針をそれぞれ整理していく。 (令和2年10月素案, 12月策定予定)</li> </ul>

### 3 施策領域

主な意見	計画素案への対応状況
人生全体と学びをつなげて考え、リカレント教育を含めた複線型の教育を進めることが重要。	<p>【リカレント教育】(37 ページ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 『教育』の取組の方向において、「⑦ リカレント教育の充実」を新設した。</li> </ul>
グローバル化や家族形態の変化等に対応し、多様性を認め合う共生社会を構築する必要がある。	<p>【地域共生社会】(44～45 ページ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新たな領域として『地域共生社会』を新設した。</li> </ul>
大規模災害の頻発化に伴い、ハード・ソフト両面の対策が必要である。	<p>【防災・減災】(46～47 ページ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 『防災・減災』において、効率的かつ効果的なハード対策を実施するとともに、適切な避難行動を実践する取組などを進めていく。</li> </ul>
海洋ごみや地球温暖化は、『環境』に留まらず、他の分野にも影響を与えており、その場合には「考慮すべき課題」として記載すべき。	<p>【環境】(72～73 ページ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 『環境』の目指す姿に、かき養殖に由来するプラスチックごみの流出防止などにより、瀬戸内海の環境保全を進めていくことを位置付けた。</li> </ul> <p>【農林水産業】(57 ページ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 『農林水産業』では、こうしたかき養殖に由来するプラスチックごみの問題を考慮すべき課題に記載した。</li> </ul>